

# 紙への二道

伝統の技の冴えが、ふくよかな紙を漉きあげる。

トロロ  
アオイ  
(ネリ)



日本の手漉き和紙は、世界に誇る流し漉きという技を見出だした。この技法には補助材料としてトロロアオイ(ネリ)を用いる。紙の材料を均等分散させ、纖維と纖維をつなぎ止める作用を持つ。また、粘着力がないので乾燥の時に一枚ずつ剥がしやすくする効果もある。

抄造  
八



漉き舟に水と碎いた楮の紙料を入れ、マグラと呼ばれるもので前後に振りながらかきませる。そしてよくつぶしたトロロアオイ(ネリ)を入れて、均等に分散させることによって、紙の仕上がりに多大な影響を与える。

数子  
九



角度で素早く漉き、舟の紙料を汲み上げ、簀全体に和紙の表面を形付ける。この時に汲み捨てる水を化粧水という。

調子  
十・十一

捨水

目的の厚さになつたところで、簀に残った水と紙料を向かい側に捨てる。簀を持ち上げ気味にやらないとうまく捨て水ができない。水切り三年と呼ばれるほど技術の習得が必要な作業である。

◎ 捨水

次にやや深く汲み上げ、前後に調子をとりながら纖維を重ねながら和紙の層を作る。紙の厚さはこの回数で決まる。向かい側が薄くなりやすいので、向かい側をいくらか下げ気味に。